

令和 5年 6月 19日

報道機関 各位

第34回「人文知」コレギウム 「言語を探求する」

■ 概要

富山大学人文学部は、学部教員による研究会「人文知」コレギウムを定期的を開催しております。富山県の「人文知」の拠点として、人文研究のさらなる高みを目指して、様々な分野の教員が集い、相互に研究交流を図ります（※「コレギウム」は「仲間たちの集い」という意味）。

来る令和5年6月28日（水） 第34回コレギウムでは「言語を探求する」をテーマに研究発表を行います。（詳細は、別添チラシをご参照ください）

■ 日時・場所 他

- 日時 : 令和5年6月28日（水）
場所 : 富山大学人文学部棟3階第6講義室（※対面にて開催）
定員 : 110名（※事前登録が必要です）
内容 : 13:30-14:30 安藤智子「気づかない方言文末詞に気づくとき」
14:30-15:30 森賀一恵「音注は意味を教えてくれる」

一般の方々や学生の聴講も可能です。多くの方々のご参加をお待ちしております。
つきましては、取材・報道方よろしくお取り計らい願います。

【本発表資料のお問い合わせ先】

富山大学 五福高岡地区事務部
人社系総務課（人文学部担当）
TEL : 076-445-6131
ウェブサイト : <https://www.hmt.u-toyama.ac.jp>

第34回「人文知」コレギウム

言語を探究する

第六講義室

2023年6月28日（水）13:30～15:30

安藤智子（言語学・教授）

気づかない方言文末詞に 気づくとき

13:30～14:30

共通語が普及した現代では、方言話者も共通語を使おうとする場面がある。しかし、本当に通じる共通語になっているだろうか。共通語のつもり「気づかない方言」になってはいないか。とりわけ、正確なニュアンスが伝わらなくても情報伝達に齟齬を生じないタイプの文末詞では、誤解されたまま気づかないことも少なくない。

富山方言と岐阜県東濃方言の事例を挙げ、イントネーションが絡む文末詞の調査の課題について検討する。

森賀一恵（言語学・教授）

音注は意味を教えてくれる

14:30～15:30

漢字は音素文字ではないので、表音は難しく、音を表すために、古くから様々な方法が考えられてきた。まずは同音の常用字を使って示す直音法。しかし、全ての音に誰でも音を知っているような常用字があるとは限らない。そこで二字の漢字の組み合わせで音を表す反切が考案された。そのような表音法による音注は古典の注釈には必ずといってよいほど用いられるが、実はそれらは難読字の音を示すより、意味を示す機能を果たすことの方が多い。音注がどのように意味を示すのかについてお話したい。

事前申込お願い致します

下記 URL または QR コードからお申し込みください。

<https://forms.office.com/r/bPt7dRFhVZ>

申込締切後、登録されたメールアドレスに詳細をお送りします。メールアドレスに誤りがあると案内をお送りすることができませんので、ご注意ください。前日までに連絡がない場合は、下記総務課にお問い合わせください。

申込締切：2023年6月25日（日）

聴講は無料です。学生・一般の方の聴講を歓迎いたします。



お問い合わせ 富山大学人社系総務課（人文担当） jinbuns@adm.u-toyama.ac.jp